

平成30年度 第2回瀬戸市環境衛生審議会議事録		
日時	平成30年12月14日(金) 午後2時から午後4時まで	
場所	瀬戸市役所1階 104会議室	
出席者	委員	出席者：小林委員、藤井委員、伊藤委員、服部委員、 林委員、吉田委員 欠席者：なし
	事務局	山内課長、長江課長補佐兼環境保全係長、 久野ごみ減量係長、石垣ごみ減量係主事
傍聴者		1名
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長江補佐から会議成立の報告</li> <li>・環境課長から挨拶</li> </ul> <p>2 議事</p> <p>(1) 瀬戸市一般廃棄物処理基本計画の見直しについて</p>		
会長	この審議会は次の5年間、ごみ減量等についてどのように進めていくかを議論することが一番の役割。市民の皆様の意見が一番大事なので、忌憚のないご意見をいただきたい。またごみ減量推進会議で議論されている内容がベースになっており、その成果に基づいて開催されているため、引続きご協力をお願いしたい。	
事務局より「基本方針を実現するための施策の体系」実施状況と実施の方向性大分類1について説明。		
会長	方向性分類について「拡大」が10件中6件と大変多いのが気になるが、体力が持つのかという懸念がある。	
委員	事業者団体との協働は、どのような事業者を想定しているのか。	
事務局	全ての会社になる。食品ロスの取組ならば、飲食店や小売店が対象になり、紙類の減量ならば全ての会社というように、取り組むトピックにより対象は変動する。現状、事業者への周知は全くできていないため、産業政策課が主催するセミナー参加企業へパンフレットを配布したり、商工会議所の会報に折り込みさせてもらうことをまずは考えている。	
委員	瀬戸市内は事業所の業者が幅広い。陶磁器関連なら「愛陶工」、他にも「穴田企業団地」「暁工業団地」などあるため、進められる観点により使い分けていただければと思う。商工会議所では年間に数回、情報物の配布をしているのでその時にご協力できると思う。	
委員	商工会議所に加入していない個人商店などへは周知可能か。	
委員	難しいと思う。	
委員	コンビニは、商工会議所に加入しているのか。スーパーでは、商品が袋詰めになっているものばかりで、消費者がごみの出ないものを	

	<p>選ぶようにも選べない状況。自動販売機の横にあるごみ箱もあふれている光景を見かけるが、業者の意識を高めないと難しいと感じる状況。タバコのポイ捨てもどこにでもある。衛生委員についても、1年間で交代してしまうため委員の意識は高くないと感じる。</p>
事務局	<p>コンビニは商工会議所に加入していないのか。</p>
委員	<p>チェーン店及び本部直轄店舗は加入していない。地元の事業者が、以前酒屋さんなどをやっていた流れでコンビニ経営しているお店であれば加入しているところもある。瀬戸市内の事業者数4～5千ある中で、商工会議所に加入しているのは約2千社しかないため、全て網羅できているわけではない。</p>
事務局	<p>コンビニについては、ごみを捨てられにくくするため、ごみ箱を店内に置いている所もある。スーパー、ホームセンターでの過剰包装については以前に比べれば減ってきたという印象があるし、包装自身も軽量化、簡素化されてきている。最近では、プラスチック類の海洋汚染が話題になっておりプラスチックストローを紙に変更するメーカーも出てきている。</p> <p>市には「ポイ捨て及びふん害の防止に関する条例」があり、自動販売機を設置する際は回収容器を設置し、適正に管理することを義務付けている。基本的には、商品の入替時にごみの回収もしていただいていると思われる。</p> <p>衛生委員については、地域差があるのが実状。毎年、瀬戸市長名で委嘱しており、一定程度の権限は与えているもののなかなか機能していない地域があるため、衛生委員という名称を変更したり、予算と相談になるが委員用のベスト、たすき、帽子など用意することも検討したいと思っている。</p>
会長	<p>ちなみに衛生委員はどのぐらいいらっしゃるのか。</p>
事務局	<p>市全体で見れば500人ほどである。</p>
委員	<p>みんながまとまってやればいいのだが、高い意識を持ってやっている人は少ないように感じる。</p>
事務局	<p>衛生委員など、地域で環境衛生分野で活躍されている方を対象に、ミックスペーパーの再生工場見学バスツアーを来年2月に実施する。見学者が地域で話をさせていただききっかけ作りになればということで計画している。</p>
委員	<p>消費税増税の際、外食と持ち帰りで税率が変わることの検討がされているが、持ち帰りをする方が今より増加すると、ポイ捨ても増えてしまうのでは。またプラスチック排出量は世界で3番目と多い、瀬戸市だけで解決できる問題ではなく難しいと思うが。</p>
事務局	<p>瀬戸地方近郊駅伝開催前にコースの清掃活動を実施したが、ポイ捨てごみが非常に多く、モラルの向上については我々も悩んでいるところである。</p>

会長	言い出せばきりが無いぐらい課題はあるが、一歩ずつ進めるための知恵を出し合うことが大切である。
委員	小中学校からの教育はとても大切だと思うが、学校教育についてはどのようなことをやられているか。
事務局	小学校4年生はごみの授業があるため、その中の1、2枠をいただいて小学校で出前授業をやっている。しかし、小学校側も様々な授業で手一杯になっており、時間を割くのが難しい状況。課外学習だったり、社会見学で晴丘センターの見学に行くため、その機会に短時間でも話せる時間を設けるなど別の方法を検討したいと考えている。
委員	予算も限られており、副読本「せと」にごみのことを掲載することもよいのでは。
事務局	改訂の都度、内容を見直し掲載しているため授業では使ってもらえていると思う。推進会議からは、現場の声を直接届けるべきとの意見をいただき、出前授業を実施しているが、学校側に募集をかけてもなかなか手をあげてもらえない。
会長	私も小中学校の教育のお手伝いをしているが、カリキュラムがパンパンのため授業数の確保が難しくなっているのが現状。市で副読本に相当するものを作成することは可能かもしれないが、新たな授業数の確保はなかなか難しい。
会長	方向性分類について「拡大」が6件あるが、その中でもメリハリをつけてやってほしい。
委員	「適正負担の検討」については、具体的にやる内容は決まっているのか。
事務局	検討の着手の段階のため、まだ具体的には決まっていないがアンケートやタウンミーティングなどはやる必要があると考えている。
委員	何かをやろうとするときは、地域を回っていただいて自治会の力を借りたり、地域とのコミュニケーションをとってほしい。市の現状をお話いただき、意見をもらうことで市民の気持ちを動かすことにつながると思うので、ぜひやって欲しい。
事務局	ぜひやっていきたいと思う。
委員	先ほど晴丘センターで50億円の工事費について話があったが、焼却施設が市にないとさらに市外搬出に莫大なコストがかかるため、絶対に必要な施設である。そのための財源であれば、ある程度市民も受益者負担という形で負担をしなくてはいけないと思う。
事務局	そのような内容を市民に説明していきたい。
会長	ごみ焼却施設の耐用年数は20年。延命化工事をするとならば10年になる。
委員	晴丘センターの延命化工事に約50億円かかるということか。この負担割合は3市でどうなっているか。
事務局	おおむね「瀬戸5：尾張旭3：長久手2」である。

委員	瀬戸市は25億ほどの負担ということか。
事務局	国からの補助金、起債、積立金を組み合わせて支払うことになる。建替工事をすると約200億かかると言われており、年間コストを加味した結果、まずは延命化工事をする事とした。
委員	延命化工事をして、10年間しか使えないということか。もし焼却施設が地元行政区にない場合、域外搬出するとなるとごみの処理費用は割高になるのか。
会長	他地域のごみを受け入れるということはそもそも想定されていない。災害廃棄物であれば、域外のものでも+10%ぐらいは受入できるように設計されているが、通常のごみの受入は処理量に想定されていない。
委員	そうすると、域内で発生したごみは、域内で処理しなくてはならないということか。
事務局	ごみ処理は自治事務になるので、市の責任で処理しなくてはならない。
委員	外国人の居住者が増加しているが、ごみの出し方についていくら説明しても理解してもらえない方がいる。曜日が守らず出されているごみを発見した時は、ごみの中身を空けて排出者を特定する作業を市民がやっても構わないのか。
事務局	本来ならやらないほうがよい。
委員	市も転入者には、ごみの出し方のパンフレットを渡して説明しているとは思いますが、ごみの出し方が悪いのは、ごく一部の方であるが。川の清掃活動をしている団体もあるが、ポイ捨てごみがたくさんあった。
委員	萩山小学校は、入学者の多くが外国人という話を聞いたが。
委員	入学者9名とも外国人であり、日本人は1人もいない。
委員	スーパーに買い物に行くと外国人の親子をよく見かけるが、親が日本語を話せないため、子どもが通訳をしている様子を目にする。そのため、子どもの環境教育をしていただければ少しは改善するのではと思う。
委員	団地付近の小学校については外国人が増えており、児童の2割ぐらいいらっしゃる。
委員	市内でも地域によって、実情が違っていることが多いので、ごみの出し方の指導や、適正負担の検討についても地域特性を考慮しながら進めていただけるとよいと思う。
委員	町内の方から、外国人へのごみの出し方について意見をいただいたため、環境課から外国語版の「ごみの出し方」チラシをいただいた。これをただ回覧するのではなく、説明を加えながら手渡しする取り

	組みを始めているところである。ただ、完全に理解してもらうことは難しいと感じている。
会長	様々な課題があることがよくわかった。新たな課題に対しても知恵を出し合うことが必要である。
事務局より「基本方針を実現するための施策の体系」実施状況と実施の方向性大分類2について説明。	
委員	個別包装の製品をよく見かける。小売側は山積みで販売すると、お客様が山の下側から買っていくので、上に置いてあるものはごみになってしまう現状があるため、個別包装はやむをえないという話を聞いたことがある。野菜などを過剰包装なしで販売するよう、行政からスーパーへ指導していただくことは可能か。
事務局	指導は難しいが、現状把握のため推進会議メンバーの方と一緒にスーパーにヒアリングに行くことは可能である。
委員	飴玉なども、大袋の中に1個ずつ個包装の袋に入っているが、この包装は結局ごみになってしまう。メーカー側もごみを減らしたいという思いはあると思うが、消費者のニーズのためそうせざるをえない状況。そうすると、消費者側の意識を変える必要がある。例えば、詰め替え容器のほうが値段が安いとなると、消費者は反応する。商工会議所の事業者さんとお話する機会を設けていただき、事業者側の考え方など聞くことで何か新しい切り口を見つけていただければと思う。生ごみの削減は、食べ残しだけでなく、家庭の主婦（夫）目線で考えてみるとよい。
委員	生ごみの水切り方法についてテレビで紹介されていた。関心ある方はやってみようと思うが、みんなが取り組むようにするには政府がポイント還元するぐらいのメリットを市民に与えなければ動かない。買い物の際も、棚の奥に新しいものがあるため奥から取っている光景を見かける。安いからと大量に購入したが、結局食べきれず捨てられていることも多い。損得だけで考えたくないが、消費者側にもインセンティブを与えないとなかなか変わらない。
会長	大分類1、2ともに「D実施」欄のマークが変わっているが、今回で確定するということか。
事務局	前回の意見をもとに変更したものであり、今回ご意見をいただき最終的には、次回で確定させたい。
事務局より「基本方針を実現するための施策の体系」実施状況と実施の方向性大分類3について説明。	
委員	別紙「重点テーマ毎の達成状況と達成のための方向性」についてだが、「雑がみの燃えるごみへの混入率の低下」について、目標4%に対し、H27年度4%、H28年度6%、H29年度10%と増えているが、取り組んでいるのに増えているのはなぜか。

事務局	<p>組成調査の調査数が 80 袋と少ないため、誤差は発生してしまう。また H29 年度は、調査時に「雑誌」が「ミックスペーパー」のかごに入ってしまったため、ミックスペーパーの比率が大きくなってしまったこともあげられる。実際に、H29 年度の「資源紙類」は 2% しかなく、H30 年度は「ミックスペーパー」 6%、「資源紙類」 9% という結果。ただし、ミックスペーパーが可燃ごみにまだまだ混入していることは事実であり、様々な場面、タイミングで P R していく必要があると考えている。</p>
会長	<p>年末の「分けっこ広場」について、資源回収機能の充実に向けた取組だと思うので、年末は代替機能として実施している旨を記載してもよいのでは。今のままでは、何も実施していないかのように聞こえてしまう。</p>
委員	<p>「分けっこ広場」は来場者も多く盛況であった。2 年前は来場者少なかったが、昨年は不燃ごみを出せるようにしたこともあり来場者が増えた。毎年、試行錯誤してやっていると感じている。</p>
委員	<p>ごみ出しの啓発看板が置かれているが、もっと大きな字にしてほしい。マンションではごみ置場に啓発看板張られている場所もあるが、ごみ出しマナーが悪いため、管理人に対しマンション住民へ指導するよう要請しても、「業務外である」と断られたことがある。市から管理会社や不動産会社への働きかけも必要なのでは。町内会でやるには限界がある。</p>
会長	<p>外国人の方もわざとやっているわけではなく、ごみ出しの日がわかっていればきちんと出していただけだと思う。スマホ等から QR コードを読み取るとごみ出しの曜日が分かるシステムは作成可能だと思う。市民が一番知りたい情報は、「今日、どのごみを出す日なのか」である。看板の書き方についても出す曜日ごとに色を変えるなど、改善できる点はある。</p>
委員	<p>「指定日以外は出さないでください」との看板を見かけるが、実際に出す曜日が書いていないと、いつ出せばいいのかを知らない人はいつまでもわからないままである。</p>
会長	<p>管理人に、ごみ出しの日はごみ置場に「可燃ごみ」の表示をしてもらうなど、パッとみてわかるような情報の出し方になっていない気がする。悪意がある方ばかりではない、どこかに課題があるので地道に進めていくしかない。</p>
委員	<p>夜中にごみが出されている事例も見かける。</p>
会長	<p>ライフスタイルの変化で、夜しかごみ出しができない人も一定数いるので、夜でも見える看板にするなど、もう一工夫できることはある。全部の地域で実施することは難しいので、外国人が多い地域を</p>

	重点的にやってみるのもよいと思う。 ちなみに、監視カメラの導入とあるが、不法投棄対策のためか。
事務局	そのとおりである。大型のテレビや冷蔵庫などが対象である。
事務局	団地にあるごみ集積場は、地域外の人が粗大ごみやテレビ、冷蔵庫など処分に費用がかかるものを置いていくケースがある。
会長	ごみ量の集計は、市の収集実績であるため、民間業者やスーパーで回収された資源物類はカウントされない。そのため、実際に発生したごみ量と収集量は一致しない。
委員	民間の紙類回収施設はかなり増えてきている。そこで収集された量の把握はできているか。新聞、雑誌類はそちらに流れていると思われる。
事務局	実際に市の紙類の収集量は、毎年減少している。
会長	統計量は、そのようにとっているということを思い出しながら考えていく必要がある。
事務局より「基本方針を実現するための施策の体系」実施状況と実施の方向性大分類4について説明。	
会長	民間食品リサイクル施設との連携とあるが、どこから発生する食品ロスを対象にしているか。
事務局	コンビニ、スーパーから発生する残り物になる。中部有機リサイクルやバイオプラザなごやといった飼料化、肥料化できる施設が名古屋市にあり、市内のコンビニ、スーパーの多くはこの施設を活用していただいている。ただし、市外にごみを搬出する場合は、受け入れ先の名古屋市と調整をしなければいけないため、その事務は環境課で実施している。
会長	事業者の廃棄物ということか。
事務局	事業系一般廃棄物である。
事務局	食品の事業系一般廃棄物は、ほぼ晴丘センターに持込まれていたが、瀬戸市には食品リサイクル施設がないため保冷機能がある冷蔵車を用い、名古屋市の施設に持込むことで飼料、肥料にリサイクルされる。現状、晴丘センターに食品廃棄物を持ち込んでいる事業者にはそのような選択肢があることを案内して、リサイクルを選択する事業者が増えたらいいと思っている。
会長	小中学校の給食残渣については課題となっているのか。
事務局	給食残渣や食べ残しは多く発生しており、一つのターゲットと考えている。小学校は学校ごとに給食を作っている単独校が多く、中学校では給食センターで一括調理している。単独校では、以前に生ごみ処理機を活用していたようだが、現状は晴丘センターに持込み、焼却している。晴丘に持込まない措置ができればと思っているが、名古屋市のリサイクル施設への搬入となると収集コストが増加する

	ため、学校側も新たなコストをかけられない模様。
会長	給食残渣量はそこそこあるのか。
事務局	給食の食べ残しについては、このご時勢難しい面がある。残渣の取扱いについてもノロウイルス等の集団感染の疑いがあるため、全て廃棄せざるをえない状況である。
会長	状況はわかったが、そもそも子どもが残さないようなメニュー作りをするべきでは。
委員	小学校の評議委員をしている関係で、学校給食を実際に食べる機会があるが、子どもに人気メニューはあまり噛む必要のないカレーなど。逆に、関東煮や魚などは不人気。子どもに話を聞いても、母親は子どもの嫌いなメニューはそもそも作らない家庭が多いようだ。
会長	栄養士が、バランスを考えてメニューを作っていることはわかっているが、食べ残しが減るようもう一步工夫をしてほしい。このままでは同じことの繰り返しである。
事務局	ある学校では、給食を一旦は全部配膳し、鍋の中身を空にすることで食べ残しが減ったという成功例がある。ただし、これを成果として書いてしまうと他の学校に強要することになるため、記載はやめて欲しいとの学校サイドからの想いがあった。ただし、食べ残しはよくないということで独自に工夫をしている学校があるのも事実である。
委員	少食の子どもが増えており、始めからそれを見越して作る量を減らしてはどうかといった話が出たこともあるが、学校給食では子どもの年齢ごとに必要カロリーが定められているため、難しい。また自校給食では作りたてのためおいしいが、給食センターで作ったものは配送中に温度が下がるため、味が落ちてしまうということもあるようだ。
会長	冷めてもおいしい給食、メニューを作って欲しい。ずっと続けている課題のため、そのような努力が足りないと思うので、学校側に伝えていくしかないのでは。
委員	学校給食は、給食当番の人が全員のご飯をよそっているのか。会社の食堂のように、バイキング方式ではないのか。
委員	当番がよそっている。
委員	ごみ集積場の高齢者対策とあるが、どのような内容か。
事務局	集積場を極力、増加させないという大前提はあるが、近隣の集積場まで遠い方については可能な限りフォローをするということである。
委員	自宅の前まで収集に来てくれるサービスもあるのか。
事務局	「ふれあい収集」というサービスをやっている。ヘルパーさんには周知してあるため、本人によるごみ出しが難しいと判断した場合は、ヘルパーさんから申請いただくというケースがある。



委員	杖をつきながらごみ出しをしている方を見かけたり、ヘルパーさんがごみ出し日ではない日に来るケースもあるが、こういった方を救う方法はないのか。
委員	高齢者福祉課では、ヘルパーさんを使うよりも軽微なお手伝いが低料金でできるサービスの取り組みを始めている。
事務局より「重点テーマ毎の達成状況と達成のための方向性」について説明。	
会長	ミックスペーパーの回収については、どんな袋に入れても出せることを記載したスーパー袋をイベントなどで配布することを予算を使ってやってみたらいいと思う。
委員	事業を実施するにあたり、環境課のごみ減量担当の人数はどのぐらいか。
事務局	環境課には4人しかいないが、資源リサイクルセンター、クリーンセンターの職員と協力しながらやっていきたい。
委員	継続事業はそのまま進めてもらえばよいが、特に新規事業については準備等に時間がかかるため、人員が限られている中では優先順位をつけてやってもらいたいと思う。
会長	スクラップアンドビルドの判断もあってよいかと思う。全て大事な施策だと判断したのであれば進めていただければよいが、メリハリをつけてほしい。
事務局	ご意見いただき、今後精査していきたい。
(2) その他	
事務局より「平成30年度ごみ組成調査実施概要」について説明。	
会長	私自身も組成調査に参加したが、プラスチック容器包装がとて多かかったと実感している。これを分別収集するとなると、多くのコストがかかるので難しいとは思いますが。ちなみに、紙おむつは今年度は少し減っている。現在の全国平均は6%だが、5年後には8%に増えると言われている。
委員	たしかに老人ホームなどの介護施設が増えている。
委員	昔、(株)トキワ【現:(株)エコペーパーJP】が介護施設と契約し、紙おむつを集めていたと思う。現在はやっていないかもしれないが。
事務局	事務局でも調べてみる。
委員	徳島県上勝町では、全国最多の45種類のごみ分別が実施されている。ボールペン、歯ブラシ、レシートまで細かく分別することで可燃ごみを減らし、年間1000万円以上の節約につなげている。さらに資源物として売却することで年間200万円以上の利益をあげているようだ。ただ、45種類の分別となると、市民の立場としては大変だと思うが。
委員	上勝町の取組は、収集しているわけではなく町の資源物持込施設に町民が持込んで、分別しながら出す取り組みのようだ。この取組

	みにより、町民が集まることでふれあいができるようになったことが大きなメリットのようだ。農家が多く、非常に人口規模の小さい町（約 1,500 人）のため可能となっている。
委員	名古屋市も分別が細かいような気がする。分別を増やすと、ごみは減るのか。
委員	名古屋市だと、分別袋の種類が多いため、出ているごみ袋の大きさは小さいように感じる。
委員	分別を増やすことでごみが減るのはいいことだが、市民の皆さんができるかはわからない。いいことでも、できないことはある。
会長	傍聴者の方、審議内容について何かご意見はございますか。
傍聴者	ごみ減量推進会議の委員をさせていただいている。環境教育の件では、いくつか案が思いついたので次の推進会議で議論したいと思う。食品ロスや紙おむつ削減など、国が進めようとしている政策にぶら下がっていくことが一番効果が早いと思っている。また副読本の件では、CSRや環境教育をやりたがっている民間事業者は多いので、こういった事業者から支援を得られないかと思った。
事務局より次回審議会の日程について説明	
事務局	今後の審議会の日程について、平成31年2月中旬を予定しているため、日程調整させていただく。

平成 年 月 日

会長

印